

時代の変遷は興亡を極め、多くの寺宝、霊木を失った。特に明治初年の長沼町の大火は、永泉寺まで延焼して、広葉杉も北側が焼けて、その部分は枝もあまりのびていない。

近年、この寺を訪れた詩人、草野心平氏も、中国にもこれほどの大木は見られず、おそらく世界一の広葉杉であろうと激賞した。

県指定天然記念物（「長沼名義考」・「長沼町の文化財」写真集より）

畑にジシバリ、田にビルモ

《滝》

旧六月のある日、入梅も過ぎて、むし暑い初夏の天気であった。滝村の農婦が子どもを背負って、田の草取りをしていた。田には、草が生えていたし、お昼間近か子どもが背中であわわぐので、少々面白くなかった。

笠をかぶって、錫杖をついた旅の僧が通りがかった。「アネコ、のどがかわいたのでこの辺に清水はなにかね」と訪ねた。「向こうの一本杉のあたりにあつから、自分でさがして飲んだらよかつべ」とつつけんどんに答えた。

旅僧は、「分かんないので、案内してくれんかね」と頼んだが、だまって案内もしなかった。

旅僧は、「何と不親切なんだ。畑にジシバリ、田にビルモ、国にドスンボがなけりや良いが」とひとりごとをいって立ち去った。